



社会貢献支援財団、 「平成20年度社会貢献者表彰」の 受賞者を発表

人命救助の功績など三分野50件に対し、日本財団賞を贈呈

社会貢献支援財団（会長 日下公人）は、「平成20年度（第38回）社会貢献者表彰」の受賞者を発表した。

同財団は日本財団の助成を受け、社会の各分野で顕著な功績を挙げながら、社会的に報われる機会の少ない方を対象に、昭和46（1971）年以来、毎年秋に社会貢献者表彰を行っており、昨年までの表彰件数累計は、1万1千7百件以上に上っている。

5月31日までに寄せられた156件の推薦の中から選考の結果、1.「人命救助の功績」13件、2.「社会貢献の功績」35件、「特定分野の功績」2件、合計50件を表彰することとなった。受賞者には夫々『日本財団賞』として副賞50万円が贈られる。

なお、表彰式典は11月17日（月）にANAインターコンチネンタルホテル東京（旧全日空ホテル）で行われる。

「平成20年度社会貢献者表彰」の概要

*候補：156件

*受賞：50件

受賞内訳

- ・人命救助の功績：13件（20名）／日本財団賞（副賞50万円）
- ・社会貢献の功績：35件（23名 13団体）／日本財団賞（副賞50万円）
- ・特定分野の功績：2件（2名）海の貢献賞／日本財団賞（副賞50万円）

功績区分の内容

1. 人命救助の功績

- ・海難・水難、交通事故、遭難等に際し、身命の危険を冒して救助・救援に尽くされた功績
- ・犯罪等の発生に際し、身命の危険を冒してその解決に協力された功績
- ・災害・事故・犯罪の発生を未然に防いだ功績

2. 社会貢献の功績

- ・精神的・肉体的な著しい労苦、危険、劣悪な状況に耐え、他に尽くされた功績
- ・困難な状況の中で黙々と努力し、社会と人間の安寧・幸福のために尽くされた功績
- ・先駆性、独自性、模範性などを備えた活動により、社会に尽くされた功績

3. 特定分野の功績

『海の貢献賞』

- ・海の安全確保、環境保護、汚染防止等に尽くされた功績
- ・海に関わる産業分野において
 - 傑出した技能による同分野への貢献と技能の伝承に尽くされた功績
 - 優れた発明・考案・改良等により同分野の発展に尽くされた功績
- ・海に関わる文化の発展・保存・伝承等に貢献された功績

表彰選考委員

- 委員長 内館 牧子 (脚本家)
 犬丸 一郎 (トット基金 理事)
 大武 健一郎 (商工中金 副理事長)
 勝谷 誠彦 (コラムニスト、写真家)
 神津 十月 (エッセイスト)
 山根 基世 (元NHKアナウンサー)
 米長 邦雄 (日本将棋連盟 会長)
 吉永 みち子 (作家)

報道関係のお問い合わせ先

社会貢献支援財団 <http://www.fesco.or.jp/>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル2階
 TEL : 03-3502-0910
 FAX : 03-3502-7190
 E-mail : fesco@mve.biglobe.ne.jp

平成20年度 表彰受賞者 (計50件)

【 人命救助の功績 】 13件 (20名) (敬称略)

番号	受賞者名	年齢	都道府県	備考
1	故. 關谷 定男	57 歳	岐阜県	
2	池田 和生	32 歳	鳥取県	
	高石 知	27 歳	山形県	
3	宮寄 義行	60 歳	愛知県	
	宮寄 洋子	58 歳	愛知県	
4	故. 後藤 克貴	23 歳	岡山県	
5	佐藤 直樹	55 歳	長崎県	
6	逆井 充文	35 歳	千葉県	
7	亀井 英紀	35 歳	東京都	
	島崎 勝	42 歳	埼玉県	
	長谷川 透	49 歳	埼玉県	
8	上野 武志	48 歳	大阪府	
9	栗山 博之	55 歳	福岡県	
10	増本 節子	72 歳	佐賀県	

番号	受賞者名	年齢	都道府県	備考
11	城取 直道	19 歳	東京都	
	故. 徳丸 満	49 歳	東京都	
	前田 耕一	33 歳	東京都	
12	故. 児島 由憲	29 歳	埼玉県	
	田中 義和	32 歳	埼玉県	
13	故. 豊里 淳	30 歳	沖縄県	

【 社会貢献の功績 】

35件（個人23名団体13件）

番号	受賞者名	年齢	都道府県	備考
14	環境ボランティアサークル 亀の子隊	-	愛知県	
15	ボランティアサークル護美の会	-	福島県	
16	かまくらりんどうの会	-	神奈川県	
17	菅 恵子	76 歳	秋田県	
18	門口 淳	72 歳	兵庫県	
19	山口 由美子	59 歳	佐賀県	
20	大阪声のグループ	-	大阪府	
21	市原 美穂	61 歳	宮崎県	
22	近藤 雅美	67 歳	大阪府	
23	赤木 勝幸	40 歳	愛知県	
24	社会福祉法人 あかね	-	千葉県	
25	若葉青年教室	-	山形県	
26	佐々木 豊志	51 歳	宮城県	
27	岩川 松鶴	70 歳	山形県	
	岩川 久子	69 歳	山形県	
28	NPO 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」	-	鹿児島県	
29	松崎 美穂子	49 歳	徳島県	
30	川又 直	54 歳	富山県	
31	森下 一	67 歳	兵庫県	
32	鹿児島県立栗野工業高等学校 建設工学科木工班	-	鹿児島県	
33	鹿児島情報高等学校 無線科学部	-	鹿児島県	
34	ハートリンク	-	新潟県	
35	鎌田 十六	95 歳	東京都	
36	佐野 昌宏	63 歳	静岡県	
37	カンボジア地雷撤去キャンペーン	-	福岡県	
38	内田 弘慈	71 歳	奈良県	
39	萱原 於李栄	61 歳	岡山県	
40	オーケーバジを支援する会	-	群馬県	
41	松田 實	67 歳	広島県	
42	特定非営利活動法人 国際エンゼル協会	-	兵庫県	
43	加藤 正美	82 歳	PERU	
44	ドクター・エス・ケイ・ノーディン(Dr.S.K.Noordeen)	75 歳	INDIA	

番号	受賞者名	年齢	都道府県	備考
45	ブン・マオ(Boun Mao)	34 歳	CAMBODIA	
46	ジェームズ・ジェイ・デカロ(James J.DeCaro)	61 歳	U.S.A	
47	オーガスティン・アゾチマン・アウニ(Augustine Azochiman Awuni)	53 歳	新潟県	
48	シスター・ジョセフィン・アルル・チャンドラ(Sr.Josephine Arul Chandra)	53 歳	INDIA	

【 特定分野の功績「海の貢献賞」 】

2件 (2名)

番号	受賞者名	年齢	都道府県	備考
49	小松 修	60 歳	大阪府	
50	渡邊 忠一	76 歳	愛媛県	

日本で初めてのインド民族芸能が披露されます！

社会貢献の功績により、受賞されますインドのシスター・ジョセフィン・アルル・チャンドラさんとともに来日されます皆さんによりタップアッタムという太鼓舞踊などの民族芸能が、11月17日の下記の表彰式典の祝賀会で、日本で初めて披露されます。

チャンドラさんは、南インド・タミルナードゥ州の中央に位置するディンディガル県にある村のシャクティセンターで、ダリットと呼ばれる社会的に最も弱い立場の女性に、ダリットの人々自身が育んできた民族芸能や楽器を通じて、自尊心を回復し、内面から意識変革をもたらすなかで、女性のリーダーを養成する活動を続けています。

当日、シャクティグループにより披露されますタップアッタムという民族芸能は、タップウという丸い木杵の片面だけに皮をはった太鼓を両手のバチでたたきながら、様々な足のステップをくり出して、女性の声なき声をのせて踊り歌います。

取材等ご希望がございましたら、予め当財団にご連絡いただき表彰式典並びに祝賀会会場において下さいますようお願い申し上げます。

記

平成20年度社会貢献者表彰式典次第

日 時 : 平成20年11月17日(月)
表彰式典会場 : ANA インターコンチネンタルホテル東京
地下1階「プロミネンス」
東京都港区赤坂1-12-33
電話03-3505-1111(代)

第1部 表彰式

10:35 開 式
国歌斉唱
会長あいさつ
選考委員長あいさつ
表彰状並びに日本財団賞の贈呈
来賓代表祝辞(内閣総理大臣殿)
常陸宮殿下のおことば
12:00 閉 式

第2部 祝賀会

12:20 開 宴
13:30 閉 宴

お問い合わせ先
社会貢献支援財団 <http://www.fesco.or.jp/>

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル2階
TEL : 03-3502-0910
FAX : 03-3502-7190
E-mail : fesco@mve.biglobe.ne.jp

以上



シャクティ・メンバーによるタミル民族舞踊タッパアッタム
(太鼓タップはダリット文化の象徴)

受賞者のプロフィール[50件・敬称略]

1. 人命救助の功績・日本財団賞 13件 (20名)

- ・海難・水難・交通事故、遭難等に際し、身命の危機を冒して救助・救援に尽くされた功績
 - ・犯罪等の発生に際し、身命の危険を冒してその解決に協力された功績
 - ・災害・事故・犯罪の発生を未然に防いだ功績
-

故 關谷 定男 (昭 26. 4. 11 生 享年 57 歳/岐阜県)

平成 20 年 4 月 11 日の午前、名阪近鉄旅行のツアー客 39 名を乗せた観光バスの運転手として東名高速の上り線の静岡県牧之原市付近を走行中、下り車線を走行してきた大型トラックの左後輪が外れ、ガードレールを飛び越え運転席を直撃されたにもかかわらず、的確な運転操作により二次的 사고を防ぎ、自らの命に代え 39 名の乗客とバスガイドの命を守った。

推薦者/名阪近鉄バス株式会社

池田 和生 (昭 51. 1. 31 生 32 歳/鳥取県)

高石 知 (昭 56. 5. 17 生 27 歳/山形県)

平成 20 年 1 月 14 日の午前、山形県鶴岡市の国道 112 号月山第 2 トンネル内で、乗客として乗車していた走行中の高速バス(乗客 26 名)の運転手が意識喪失しているのを察知し、瞬時に協力し路肩にタイヤを接触させるなどバスを安全に停止させ、重大事故の発生を未然に防いだ。

推薦者/財団法人 警察協会

宮崎 義行 (昭 23. 1. 8 生 60 歳/愛知県)

宮崎 洋子 (昭 25. 8. 27 生 58 歳/愛知県)

平成 19 年 9 月 25 日の午前、愛知県西尾市米津町の西尾米津郵便局に立ち寄ったところ、老女に果物ナイフを突き付け人質に取り、金を要求する郵便局強盗に遭遇し、老女を救出し、揉み合いの末、バイクで逃走を図ろうとした犯人を押えこみ警官に引き渡した。

推薦者/財団法人 警察協会

故 後藤 克貴 (昭 58. 11. 14 生 享年 23 歳/岡山県)

平成 19 年 8 月 24 日の午後、岡山県高梁市松山の JR 伯備線広瀬踏切内で立ち往生しているトラックを発見し誘導していたところ、列車の通過を示す警報機が鳴りはじめた。危険を顧みず、非常停止ボタンを押して列車に危険を知らせ、トラック運転手、列車乗客 220 名の命を守ったが、トラックと列車の衝突に巻き込まれ亡くなられた。

推薦者/財団法人 警察協会

佐藤 直樹 (昭 27. 12. 12 生 55 歳/長崎県)

平成 20 年 2 月 13 日の夕方、長崎市野母崎町野母漁港内、水深 5 メートルの海中に自転車ごと転落し沈んでいく男性を発見した。外気温 1 度の極寒の中、海面までの高低差約 4 メートルの海中に飛び込み救助するとともに、呼吸停止状態であった男性に蘇生措置を施し一命を取り留めた。

推薦者/財団法人 警察協会

さかい みつふみ
逆井 充文

(昭 48. 5. 10 生 35 歳／千葉県)

平成 20 年 3 月 15 日の午前、千葉県松戸市栄町で、建物 1 階部分から発生した火災が 2 階部分にも延焼しそうな火災現場に遭遇し、初期消火にあたるとともに 2 階に取り残され、意識朦朧となり自力では脱出不可能な男性を梯子を使って救出した。

推薦者／全国消防長会

かめい ひでのり
亀井 英紀

(昭 47. 12. 15 生 35 歳／東京都)

しまぎき まさる
島崎 勝

(昭 40. 12. 18 生 42 歳／埼玉県)

はせがわ とおる
長谷川 透

(昭 34. 2. 11 生 49 歳／埼玉県)

平成 19 年 5 月 24 日の午後、東京都千代田区鍛冶町の J R 神田駅の山手線内回りホームで、乳児を乗せたベビーカーをドアに挟さんだまま電車が発車するのに遭遇し、次々とベビーカーに跳び付き、乳児を救出した。

推薦者／全国消防長会

うえの たけし
上野 武志

(昭 35. 2. 9 生 48 歳／大阪府)

平成 19 年 11 月 19 日の午前、大阪市西淀川区の自宅向いの 3 階建て住宅の火災を発見し、3 階から乳児を抱え助けを求める夫婦から、投げ渡された乳児を身を挺して受けとめ救助するとともに窓下に持ち出した布団を重ね飛び降りた夫婦を救出した。

推薦者／全国消防長会

くりやま ひろゆき
栗山 博之

(昭 28. 9. 20 生 55 歳／福岡県)

平成 20 年 4 月 8 日の午後、福岡県粕屋郡志免町の桜ヶ丘中央公園・御手洗池で、女性から 2 人の男児が溺れていると助けを求められ駆けつけ、着衣のまま水深 4～5m の池に飛び込み水面に浮いている 1 名 (6 歳) を救助し蘇生処置を施し命を救った。

推薦者／全国消防長会

ますもと せつこ
増本 節子

(昭 11. 10. 1 生 72 歳／佐賀県)

平成 19 年 11 月 24 日の午後、佐賀県唐津市の松浦川の川辺で、女兒が川に転落した、という男児の叫び声を聞き救助に向かった。寒中、着衣を脱ぎ水深 2.5 メートルの川に飛び込み 3 歳の女兒を救助し、蘇生処置を施し、一命を救った。

推薦者／全国消防長会

しろとり なおみち
城取 直道

(平成. 10. 30 生 19 歳／東京都)

こ 徳丸 満

(昭 33. 8. 18 生 享年 49 歳／東京都)

まえだ こういち
前田 耕一

(昭 50. 10. 2 生 33 歳／東京都)

平成 19 年 5 月 23 日の午後、東京都大田区西六郷で発生し、2 部屋約 50 m² を焼いた 3 階建てマンション火災の現場で、逃げ遅れた住民の男性 2 名を梯子をかけるなど協力し救助した。

推薦者／東京都太田区

故. 児島 由憲

(昭 54. 3. 25 生 享年 29 歳/埼玉県)

田中 義和

(昭 51. 9. 14 生 32 歳/埼玉県)

平成 19 年 8 月 14 日の午後、荒川河川敷でバーベキューをしていたところ、川で溺れている男女の児童 2 名を発見し、児島氏は着衣のまま川に飛び込み男児を救出したが、水深 3 メートルの深みから脱出できず力尽き命を落とされた。田中氏は、女兒を抱きかかえ救助した。

推薦者/全国消防長会

故. 豊里 淳

(昭 52. 8. 25 生 享年 30 歳/沖縄県)

平成 19 年 9 月 16 日の午後、沖縄県浦添市の北側護岸付近で遊泳していた高校生 3 人の内 1 人が溺れた。同護岸で遊びに来ていた豊里氏は、救助を求められ台風の余波で荒波のなかを泳いで救助に向かったが、溺れた高校生とともに力尽き亡くなられた。

推薦者/全国消防長会

2. 社会貢献の功績・日本財団賞 35 件 (23 名 13 団体)

- ・精神的・肉体的な著しい労苦、危険、劣悪な状況に耐え、他に尽くされた功績
- ・困難な状況の中で黙々と努力し、社会と人間の安寧・幸福のために尽くされた功績
- ・先駆性、独自性、模範性などを備えた活動により、社会に尽くされた功績

環境ボランティアグループ 亀の子隊

(愛知県)

平成 10 年、当時小学 4 年生だった子ども達が愛知県田原市の西の浜に散乱するゴミに憤りを感じ、毎月 1 回ゴミを拾い出したことがきっかけで活動を始めた。平成 11 年にサークルとして名前を決め、毎年 1,000 人近い参加者が集まる活動は、海の環境に関心を高めるための活動として続けられている。

推薦者/愛知県田原市教育委員会

ボランティアサークル 護美の会

(福島県)

平成 9 年から、毎日早朝、須賀川市内一円に捨てられている空き缶を集め、それを換金し車椅子を購入、地元の病院、社会福祉協議会、老人保健施設などに寄贈を続けている。平成 20 年 4 月までに 110 台を寄贈してきた。

推薦者/福島県須賀川市

かまくらりんどうの会

(神奈川県)

平成元年に鎌倉市において認知症を抱える家族の会により活動を始め、家族間のつながりを持ち、認知症の理解促進、情報の交換、そして福祉の向上を図る活動をしている。高齢者福祉の問題を提起し、行政や公共機関にとって認知症や介護の問題、ニーズを的確に把握できる貴重な存在になるとともに同病について市民の相談にも応ずるなど、地域の福祉活動を続けられている。

推薦者/社会福祉法人 鎌倉市社会福祉協議会

菅 恵子

(昭 7. 11. 15 生 76 歳/秋田県)

平成 5 年から秋田県湯沢市前森の柳町北本通りと合わせ、約 400 メートルの道路で、雨の日も雪の日も年中一日も欠かさず、1 日 2 回朝夕 2 時間づつ、歩道の清掃や雪寄せのほか、公共の水飲み場と電話ボックスを掃除し、鉢花を飾るなどの活動を黙々と続けられている。

推薦者/秋田県湯沢市

もんぐち きよし
門口 淳

(昭 10. 11. 26 生 72 歳／兵庫県)

昭和 58 年に神戸市の自宅に障害者用の作業所を開所以来、障害者授産施設であるパンやケーキの福祉工場の運営、働く障害者の結婚と自立支援、少年の補導と更生、ネパールとの国際親善、災害救助などの活動を、25 年に渡り続けられている。

推薦者／金附 洋一郎

やまぐち ゆみこ
山口 由美子

(昭 24. 11. 5 生 59 歳／佐賀県)

2000 年に発生した西鉄高速バスジャック事件に遭遇し、犯人の少年から全身 10 ヶ所以上も斬りつけられ、重傷を負わされたにも関わらず、このような少年をつくらないために、少年（子ども）の居場所づくりを決意し、佐賀市に不登校や引き籠りの子ども達や親のためのサークルを設立し活動を続けられている。

推薦者／佐賀県 B B S 連盟

おおさかこえ
大阪声のグループ

(大阪府)

昭和 47 年に豊中市にグループを設立し、視覚に障害のある方のために小説や冊子などを音読してテープを制作、特に病気や事故により中途失明した方々に多く利用されている。勉強会に力を入れ、アクセントや図、表の読み方を検討し、より正確に、より聞きやすく、より良い図書を届けたいと、36 年に渡り活動を続けられている。

推薦者／大阪声のグループ

いちほら みほ
市原 美穂

(昭 22. 1. 8 生 61 歳／宮崎県)

平成 10 年に宮崎市内の空いている民家を借り上げ、「施設でもない、自宅でもないもうひとつの家」として在宅ホスピス機能を持たせたケアハウスの運営をし、安心して最期まで暮らせるまちづくりを目指し、介護者の負担を抑えて悔いの残らない看取りができるよう支援する活動を続けられている。

推薦者／ボランティア・信愛

こんどう まさみ
近藤 雅美

(昭 16. 3. 21 生 67 歳／大阪府)

昭和 59 年に大阪府の河南町で老人給食サービス事業の調理ボランティアを始め、新しいボランティアグループの設立にも積極的に取り組み、現在 10 グループ（188 名）の同町ボランティア連絡会をまとめ、老人福祉分野以外にも子育て支援やボランティアの育成など様々な視点から取り組まれている。

推薦者／大阪府河南町

あかぎ かつゆき
赤木 勝幸

(昭 43. 3. 6 生 40 歳／愛知県)

美容師として独立開業したのを契機に「加齢や障害により外出が困難な方への理美容と美容の訪問サービス」を思いつき、平成 7 年から日進市で理美容店を営業する傍ら、専門のスタッフを養成し、訪問理美容活動を始めた。その後 N P O 法人全国福祉理美容師養成協会を設立し、人材の育成にも力を注ぐなど活動を続けられている。

推薦者／小杉 辰雄

社会福祉法人 あかね

(千葉県)

「仕事をすることに健常者も障害者もない」と視覚障害者が中心の就労の場、身体障害者福祉作業所福祉情報センター「ワークアイ・船橋」を平成 7 年船橋市で開設され、人生の途中で病気や事故で身体に障害を受けた人や生まれつき障害のある人達が、残された機能を活かし、お互いを補いながら、仕事する場を築き活動を続けられている。

推薦者/NPO 日本ソーシャル・マイノリティ協会

若葉青年教室

(山形県)

昭和 60 年から鶴岡市内の実務学級や養護学校、障害児学級、高等養護学校卒業生及び会の目的に賛同する青年、会の運営に協力できる指導者等を会員（含、ボランティア 102 名）として構成された。以来会員が社会生活に必要な常識と技術の研修を通して生活の質を向上させること、また知的障害者の行き場や余暇活動に参加する機会を提供する活動を続けられている。

推薦者/山形県鶴岡市

佐々木 豊志

(昭 32. 4. 18 生 51 歳/宮城県)

平成 8 年に栗原郡栗駒町に「くりこま高原自然学校」を開校し、栗駒山の自然から享受する本物の豊かさに学び、自然体験を通じた生き方を模索され、子ども達の自主性や感受性を育む「森のようちえん」や引きこもり、ニートの就労を支援する「くりこま高原・若者自立塾」などを開催し、自然体験や冒険体験を行いながら、子どもの健全育成や若者の就労支援などの活動を続けられている。

推薦者/宮城県栗原市

岩川 松鶴

(昭 13. 1. 2 生 70 歳/山形県)

岩川 久子

(昭 14. 1. 15 生 69 歳/山形県)

20 余年の都内公立中学校教員生活に終止符を打ち、昭和 58 年蔵王に私財を投じて山荘を購入し、不登校、非行など集団生活に馴染めない若者と共同生活を送る「蔵王いこいの里」を設立した。苦労しながらも 25 年間で 500 名もの若者を巣立たせ、彼らの未来とその親子関係の改善に向けた活動を続けられている。

推薦者/岩川 耕治

NPO 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」(鹿児島県)

昭和 56 年から奄美の名瀬長浜町で活動を始め、平成 11 年に NPO 法人として認可を受け、不登校や深刻な悩みを持つ児童、保護者、障害者等の相談に応じ「自立・共生」を目指す支援活動を続けられている。特に非行問題対策に逆転の発想で取り組んだ「青年警護隊」の活動は、非少年の自尊心を高め、自立更生、自戒を促し善導するという成果をあげている。

推薦者/鹿児島県奄美市

まつぎき みほこ
松崎 美穂子

(昭 34. 3. 9 生 49 歳／徳島県)

23 年前、結婚を機に奈良から徳島市に転居し、見知らぬ土地での出産、子育ての苦労や悩みを体験をもとに、平成 5 年から子育て支援ボランティアを始めた。その後、様々な活動を経て 14 年には関係の NPO 法人を設立、翌年には同市の商店街の空き店舗を活用し、親子で利用できる支援施設を整備するなど、県下一円の育児環境の改善に取り組まれている。

推薦者／上野 隆

かわまた なおし
川又 直

(昭 29. 5. 19 生 54 歳／富山県)

昭和 62 年、富山市郊外の農村地帯で自立支援施設「Peaceful House はぐれ雲」を設立し、以来長年にわたり、不登校やひきこもり、非行といった様々な問題を抱えた児童や若者たちと共同生活を行い、農作業を通じた生活習慣の習得や社会的自立のための支援活動を続けられ、300 名以上を送り出されている。

推薦者／NPO 北陸青少年自立援助センター

もりした はじめ
森下 一

(昭 16. 6. 19 生 67 歳／兵庫県)

平成元年に兵庫県朝来市に私財を投じ日本初の不登校児のための全寮制認可高校「生野学園高等学校」を開設し、生徒とスタッフが生活を共にし、自立を支援する活動を続けられている。また、平成 14 年から鎌倉市では青年会議所や名高いお寺などと連携し、「鎌倉てらこや」を開催し、不登校やひきこもりの児童の支援活動を続け、この活動は全国 20 か所程に広がっている。

推薦者／鎌倉てらこや親の会

かごしまけりつくりのこうぎょうこうとうがっこう けんせつこうがつかもつこうはん
鹿児島県立栗野工業高等学校 建設工学科木工班 (鹿児島県)

平成 11 年から、地域に根ざし、貢献できる活動として始められた「こそくり大工」は、町内に在住する高齢者や独居老人、身体の不自由な方の住宅を対象に、壁、床、天井の張り替え、雨樋や屋根の補修などを手掛け、学習活動とボランティア活動を一体化した地域貢献活動として地域住民に愛され、親しまれるなかで続けられている。

推薦者／鹿児島県立栗野工業高等学校

かごしまじょうほうこうとうがっこう むせんかがくぶ
鹿児島情報高等学校 無線科学部

(鹿児島県)

昭和 53 年から離島を訪問し、技術のボランティアとして電化製品無料修理を開始し、昭和 63 年からは電気店のない離島に絞って活動を実施されている。当初は学習や部活動で得た知識の実践が目的の活動が、故障の製品が修復できたときの依頼者の喜びや修理者の満足感などで、その後 30 年間も続けられている。

推薦者／山口 修

ハートリンク

(新潟県)

小児がんに対する偏見をバネに、7 年間の準備を経て、生命保険への加入が困難な小児がん経験者を対象にした入院見舞金などを給付する、全国初の再保険制度による共催事業を行う任意団体を平成 17 年に設立するとともに講演会やチャリティーコンサートを開催するなど同病治療経験者の支援活動を続けられている。

推薦者／小田 敏三

鎌田 十六

(大 2. 1.16 生 95 歳／東京都)

第二次大戦の東京大空襲で生後 7 ヶ月の娘、夫、母を失った一年後、上野公園駅前の沢山の戦災孤児に心をひかれ、わが子にかえて面倒を見てやりたいと昭和 21 年から都立の児童擁護施設で大勢の子の「母」となり 70 歳まで働き続け、500 人以上の子ども達を育てられた。その後、小冊子を出版されるなど戦争の語り部として活動されている。

推薦者／東京大空襲・戦災資料センター

佐野 昌宏

(昭 19. 11. 23 生 63 歳／静岡県)

平成 8 年に初めてカンボジアを訪れ、内戦の傷跡やその悲惨な状況に衝撃を受けて以来、カンボジアの子ども達への支援を始め、私費により小学校を建設、文房具などの援助の他、同国内の学校では珍しい修学旅行も実施している。また平成 18 年から 4 年間で放置自転車 3,680 台を寄贈する活動も続けられている。

推薦者／稲 俊男

カンボジア地雷撤去キャンペーン

(福岡県)

平成 10 年に NGO として設立以来、カンボジアで支援の手が行き届かない、多くの地雷が残る、電気もない地域を中心に地雷撤去と地雷被害者救済の活動を続けられるなかで、地雷原の村に小学校も建設した。また、同国で初の試みとしてラジオを使った地雷被害者のメンタルサポートを実践し、多くの地雷被害者に障害に負けずに生きる勇気と希望を与えられている。

推薦者／田口 陸奥男

内田 弘慈

(昭 12. 2. 5 生 71 歳／奈良県)

僧侶である傍ら、17 年前からカンボジアの子ども達の命を守るために現地で井戸を掘りはじめ、平成 20 年までに 628 基を掘った。また井戸掘りの活動を通じ、現地の村長や僧侶から長い戦乱で孤児となった子ども達の世話を頼まれ、3 人の幼女を引き受けたのがきっかけとなり、現在では総勢 65 名の孤児院を建設し運営されている。

推薦者／財団法人 いけだ市民文化振興財団

萱原 於李栄

(昭 22. 4. 20 生 61 歳／岡山県)

20 年前からスリランカの子ども達の里親となり、主婦として自らが経済的に困難な局面にあった時期にも、アルバイトなどで子ども達に援助を続けた。借金をして、スリランカの銀行に基金を設立し、その資金で毎年里子の数を増やすなど、平成 20 年までに 80 人を超える子ども達を育てられている。

推薦者／野島 淑子

オーケーバジを支援する会

(群馬県)

ネパールで支援活動を続けるオーケーバジ (OK おじさんこと垣見一雅さん) を物心両面から支える会として平成 5 年に桐生市に発足し、同国の山村に学校、飲料水、つり橋、診療所など村人が本当に必要としているものの支援を続けている。今年では会発足 15 年の記念すべき年でもあり、図書館の建設を計画されている。

推薦者／松崎 靖

まつだ みのる
松田 實

(昭 16. 2. 26 生 67 歳／広島県)

平成 5 年より、ネパール山村僻地への学校建設支援活動を継続し、同国の識字率の向上に努められている。同 16 年には、学校建設支援愛好会を「ネパール学校建設支援協会 In ひろしま」に改め、山村僻地で、村人に子ども達に教育を受けさせたい強い希望があるなどを条件に学校建設の活動を続け、今年で 101 校目が完成し、1 万 5 千人を超える卒業生を送り出されている。

推薦者／吉本 美登里

とくていひ えいりかつどうほうじん こくさい きょうかい
特定非営利活動法人 国際エンゼル協会 (兵庫県)

昭和 57 年頃から発展途上国への開発支援及び国際交流に取り組み、現在は主にバングラデシュ・フィリピン・シエラレオネ・カンボジアなどを中心に活動を行なわれている。特にバングラデシュでは、昭和 62 年に現地に用地を取得し事務所を開設、孤児院、職業訓練センター、診療所、学校などを建設し中心的に活動を続けられている。

推薦者／柴田 久美子

かとう まさみ
加藤 正美

(大 15. 3. 1 生 82 歳／ペルー)

ペルーで教育を受け、苦勞しながら司祭になり、ペルー、リマにおいて貧しい日系人やストリートチルドレンの救済にあたった。1983 年には、リマでストリートチルドレンの世話と自立のために「エンマヌエルホーム」を設立し、教育と実践の場を与えている。ペルーと日本などの間を、貧しい人々の為に奔走し、子どもからお年寄りまで、その命に関わる問題を具体的に解決する活動を続けられている。

推薦者／海外邦人宣教師活動援助後援会

どくたー えす けー のー でいん
Dr. S. K. Noordeen

(昭 8. 1. 7 生 75 歳／インド)

インド建国の父といわれるマハトマ・ガンジーの思想に影響を受け、25 歳からハンセン病の制圧に取り組まれている。複数の薬を組み合わせて処方する MDT(多剤併用療法)の開発に指導的な役割を果たし、世界の同病治療を塗り変え、50 年間にわたり「人類が同病を制圧する」という世界の同病制圧に多大な貢献をされている。

推薦者／紀伊國 献三

ぶん まお
Boun Mao

(昭 49. 3. 8 生 34 歳／カンボジア)

バイク強盗に襲われ失明し、2000 年にはカンボジアで初めて盲人協会を設立した。その後、カンボジアの盲人の模範として一般社会に偏見と差別をなくす活動を続けるとともに、盲人の生活向上を目的とした雇用につながる技能訓練や地域に根ざしたリハビリテーションなどのサービスを提供する活動を続けられている。

推薦者／石井 靖乃

じえーむず じえい で かる
James J. DeCaro

(昭 22. 11. 9 生 61 歳／アメリカ)

1971 年にアメリカの国立聾工科大学に赴任されて以来、聴覚障害学生が健聴の学生と机を並べて勉強出来るよう聴覚障害者支援の専門技術やノウハウを指導している。現在、自ら考案され 2001 年に発足された PEN-international(聴覚障害者のための国際大学連合ネットワーク)のディレクターを務め、世界各国の聴覚障害学生の学習環境など世界の聴覚障害者のために活動を続けられている。

推薦者／本多 真紀

おーがすていん あぞちまん あうに
Augustine Azochiman Awuni

(昭 30. 8. 28 生 53 歳／新潟県)

昭和 63 年にガーナから来日、長岡市在住の傍ら、平成 15 年に設立した NPO の活動を通じて故郷ガーナのプアルグ村へ小学校を建設するなど教育支援を続けている。また日本では同市の郷土の誇りである小林虎三郎の「米百俵」の精神を中心に各地の小中高校・大学、学校関係団体など訪れ、鋭い分析力と独特のユーモラスさで子ども達に考える力や自立する力を持つことの大切さを伝えている。

推薦者／特定非営利活動法人 EDO

しすたー じよせふいん あるる ちゃんどら
S r. Josephine Arul Chandra

(昭 30. 1. 22 生 53 歳／インド)

社会の弱者に尽くしたいという強い希望から、1990 年以來、南インド社会最下層といわれる女性たちの能力を育み自信を与え、地域を牽引する多くの女性リーダーを輩出する活動を続けている。特に女性達が民族舞踊や民謡を通じ差別問題を提起する一方で、自尊心を回復させるなかで、立場の弱い女性や子ども達の生活改善や、社会参加に取り組まれている。

推薦者／黒川 妙子

3. 特定分野の功績・日本財団賞 2 件 (2 名)

「海の貢献賞」

- ・海の安全確保、環境保護、汚染防止等に尽くされた功績
- ・海に関わる産業分野において
 - 傑出した技能による同分野への貢献と技能の伝承に尽くされた功績
 - 優れた発明・考案・改良等により同分野の発展に尽くされた功績
- ・海に関わる文化の発展・保存・伝承等に貢献された功績

こまつ おさむ
小松 修

(昭 23. 8. 21 生 60 歳／大阪府)

昭和 45 年 3 月に (株) アサヒメタル工場入社以来、38 年間に亘り一貫して鑄造職場に勤務し、大から小に至る様々な形状の船用エンジン軸受けの鑄造作業に携わってきた。優秀な技能に加えて優れたチームリーダーとしての資質も発揮しながら、鑄造品を作り上げるとともに若手技能者の育成にも取り組まれている。

推薦者／社団法人 日本船用工業会

わたなべ ちゅういち
渡邊 忠一

(昭 7. 9. 4 生 76 歳／愛媛県)

18 歳の時に船大工になって以来、木造船の建造一筋に今日に至り、自分の手で技術を活かせる同船を作り続ける傍らで、ものづくりの素晴らしさと魅力を子ども達に伝えていきたいと、取組まれている。

推薦者／相本 伸幸